

～麦類の安定・高品質生産の決め手は、「適期播種」！！～

1 平成27年産 麦類の生産概況

(1) 生育概要

- ・播種後、適度な降雨と十分な日照で出芽は良好であり、出芽日数は平年より短かった。
- ・年内の草丈は、平年に比べてやや短く、葉数はやや多い傾向であった。
- ・年内の茎数は、大麦では平年並、小麦では平年より多い傾向となった。
- ・大麦、小麦ともに越冬前の目標生育量を上回り、順調な生育で寒害等の障害もなかった。
- ・越冬後の草丈は大麦、小麦とも平年を上回り、茎数は、並～多く、生育は早まった。
- ・4月下旬以降も好天が続き、高温となったことから生育ステージは早まった。
- ・出穂期は平年に比べて、大麦で6～7日、小麦で10日早くなった。

(2) 検査等級・品質概況

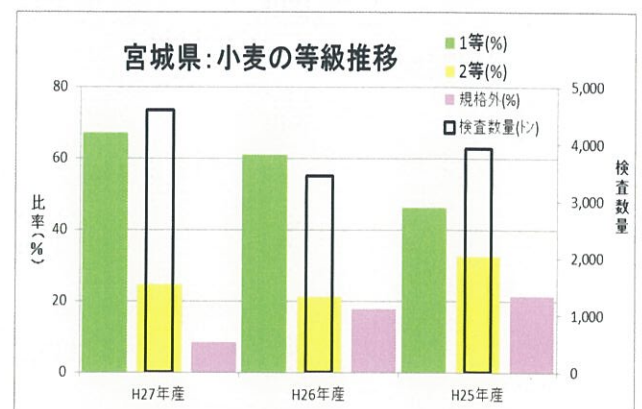
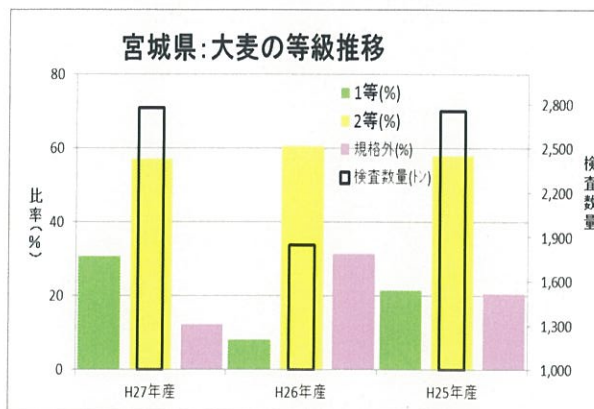
※大麦は6月10日（前年より10日早い）J Aいしのまき管内、小麦は7月10日に J A名取岩沼管内で初検査が行われた。

【大麦】

- ・1等比率は、31%で、前今年の8%を大きく上回ったが依然低い数値となっている。
- ・2等以下の格付け理由を見ると「空洞粒」での落等が見受けられた。
- ・登熟期の高温、少雨により途中で登熟が阻害されたためと思われる。

【小麦】

- ・1等比率は、67%で前年の61%を上回っており、過去3ヶ年で最も高い品質となった。
- ・2等以下の格付け理由を見ると例年どおり「形質」での落等となっている。

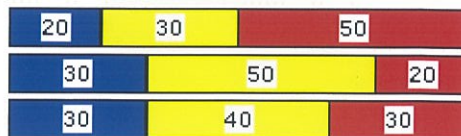


※なお、宮城県は、東北での生産量は大麦で1位、小麦では3位であるが、小麦の1等比率を見ると、岩手や青森より低い値となっている。(岩手95%, 青森80%)

2 天候予報

- ・ 平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 週別の気温は、1週目は、高い確率50%で、2週目は、平年並の確率50%である。

(10/17~10/23)	1週目	東北地方
(10/24~10/30)	2週目	東北地方
(10/31~11/13)	3~4週目	東北地方



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

3 平成28年の麦類生産に向けて

- 麦類は、気温が低下する冬に向けて生育していくので、越冬前の生育量の確保が最も重要である。(天候予報では平年並みと見られ、適期播種可能である。)
- 稲わらを早く処理し、耕起碎土率を向上させ、播種を迅速に進めることが重要である。
- 麦類の播種後、生育促進や今後の生育確保のため、排水対策を徹底する。

(1) 適期播種

- ・ 播種が遅れると分けつの発生が遅れ、根張りも不良で寒害にも弱い。
- ・ 生育の遅れは、遅発分けつの発生が多く、未熟粒や硬質粒が発生の原因となる。
- ・ 播種量は、大麦で8~10kg/10a、小麦で9~11kg/10aを基本とする。
- ・ 赤かび病等の防除のため種子更新、選種、種子消毒を確実に実施する。

【播種期】 北部平坦及び三陸沿岸地帯 晩限 10月20日
南部平坦地帯 晩限 10月30日

適期播種
された
麦類



大麦

(2) 排水対策

- ・ 圃場周囲と圃場内に10m間隔に明渠(30~40cm深)を設置し、本暗渠、弾丸暗渠を組合わせた排水対策を必ず行う。

(3) 土づくりと基肥施用量の目安

- ・ 堆きゅう肥2ト/10a、苦土石灰を50~80kg/10a施用を基本とする。
- ・ 基肥は成分量で10a当り窒素8~10kg、リン酸8~10kg、カリ10kgである。